



# あなたの会社「部下を立てる経営」しています~??

ひろよしくんのみみ  
2023年2月号 No.402  
<https://www.myts.co.jp>



～ 自然と経営の結果がでる方法はこれだ！！ ～

昨年末、中国はゼロコロナ政策を一気に解除しました。その影響で、マイツグループ中国事業所各地でも感染が拡大。殆どの社員（大凡、95%）が感染しましたが、年末・年始までに回復し今は正常に業務を行って来ており、ホッとしています。

3年間のゼロコロナ対策、昨年の上海ロックダウンは何だったのかと考えさせられますね。でも感染拡大もピークアウトしたようですので、今年の春には多くの中国人の爆買いの姿がまた日本で見られることになるのではないかと想像しています。これで弊グループのインバウンド国際医療サービスが再開できたら良いのですが…。

さて、昨年のNHK大河ドラマは「鎌倉殿の13人」でしたが、今月は人の心が読めず、悲劇の主人公になった義経について少し書いてみたいと思います。

## 源義経のプロフィール

年表	項目
1159年	源義朝（よしとも）と絶世の美女といわれた常盤御前との間に生まれる。義朝は1160年平治の乱で殺害されたので義経は義朝の記憶はありません。平清盛は、常盤御前を妾とし、足しげく館に通っていたため、義経は清盛を実夫と錯覚していたようです。後日、清盛が実夫でない事を知り、平家討伐を誓う。
1166年	鞍馬寺に預けられる。
1174年	元服すると同時に奥州藤原秀衡（ひでひら）を頼って平泉に向かったという話ですが、本当は義経の一の郎党である伊勢三郎義盛と一緒に伊勢の鈴鹿で山賊をしていたという説もあり。
1180年	静岡県黄瀬川で兄頼朝の下にはせ参じる。頼朝は、坂東武者を担ぐことによって平家打倒が成功すると考えており、義経も坂東武者と同等に扱いたい頼朝と源氏の御曹司であると考えている義経には立ち位置の認識にギャップがあった
1183年	朝廷の上洛要請を受け、頼朝は義経を警護代官として京に送る。
1184年	1月木曾義仲を討ち果たし、2月一ノ谷の戦いで平家に勝利。8月後白河法皇が義経を左衛門少尉、檢非違使に任命。
1185年	2月屋島の戦い、3月壇ノ浦の戦いで勝利し、平家を滅ぼす。頼朝は壇ノ浦の戦いで安徳天皇と三種の神器奪還に失敗した事を罵り、京で謹慎、東国への帰還を禁止する。これに義経は反発し頼朝討伐を坂東武者に訴えるも彼に同情する者なし。その後、後白河法皇も京都代官の義経追討の宣旨を下す。

1187年	追討の網をかい潜り、奥州平泉秀衡の下にたどり着き、秀衡（ひでひら）は二人の息子に義経を主君として使えよと託す。翌年秀衡が死去。
1189年	後継者泰衡（やすひら）が義経を裏切り、義経は自害し31年の生涯を閉じる。

容姿端麗、平家を滅亡に追いやった抜群の知将でもあった義経が頼朝討伐を訴えましたが、何故坂東武者たちは賛同しなかったのでしょうか？

義経の戦法は、一ノ谷の戦いでの「鶴越（ひよどりごえ）の逆さ落し」と呼ばれる奇想天外な攻撃や、屋島の戦いでは大軍が攻めて来たという偽装作成、壇ノ浦の戦いでは武器を持たない水夫を矢で狙い撃ちするという、当時の戦としてはやってはならない戦法でした。このような方法で勝利しても部下たちには「この方には付いていけない」と思わせてしまう！！

坂東武者たちは、武功を上げる事で自分の領地の拡大を図ろうとしていたのですが、義経は全てを自分の手柄にしてしまう為、坂東武者たちは領地の拡大を図る事が出来ませんでした。そのため、部下たちは誰もついて行こうとしなかった。

すべてに猜疑的であった頼朝ですから、もし義経に勝ち方の流儀、人を立てる気持ちがあれば、坂東武者は頼朝でなく義経に付いたかも知れません。



# あなたの会社「部下を立てる経営」しています~??